

宛先

ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

<https://lora-saga.jp/>

<https://lora-saga.jp/ialt/index.html>

No. 97

令和2(2020)年 2月13日

【基盤整備専門部会】 活動報告

「低平地における地盤災害」についての講演会

共催：佐賀大学都市工学科、(社)地盤工学会九州支部佐賀地区活動、
軟弱地盤研究会

去る12月4日(水)
14:00~17:30に、佐賀
大学理工学部 6号館
1F 都市大講義室に
おいて、表記の講演会
を実施しました。



講師に Dennes T.
Bergado 氏 (アジア工科大学名誉教授)、安原一哉氏 (茨
城大学名誉教授) をお迎えし、48名の参加がありました。

第一部では Bergado 名誉教授より、タイの低平地に
おける地盤災害と地場改良、河川堤防の修復事例につ
いて、また第二部では安原名誉教授より、海面上昇を
受ける地盤沈下地帯の浸水被害評価について講演して
いただきました。低平地の地盤災害や地盤改良の事例
についての最新の取り組みが紹介され、多くの知見が
得られる機会となりました。

低平地研究会会員向けコンテンツ 「佐賀県防災・災害情報アーカイブ」

ネット閲覧開始について

更なる会員様へのサービスの向上に向け、会員向
けコンテンツ「佐賀県防災・災害情報アーカイブ」の
ネット閲覧を開始いたしました。

昨今の私たちの生活や生命を脅かす大災害の頻発
で、防災・減災に対する関心が高まっております。こ
の「佐賀県防災・災害情報アーカイブ」は、時間の経
過とともに失われてしまうことが懸念される防災・災
害に関する貴重な情報をデータ化して蓄積したもの

で、佐賀大学のプロジェクト研究「地域防災技術研究
所」(平成25年10月~平成31年3月)で成果を取り
まとめておりましたが、このたび低平地研究会でこ
のデータベースを引き継ぐこととなりました。今後、
低平地研究会の会員様限定コンテンツとして、内容の
充実・拡充を図って参ります。

これからの予定といたしましては、関係各所より
ご提供いただく「低平地等の災害・防災に関する講
演・資料集」や研究会主催等の講演・講習会資料を閲
覧可能とし、更に会員の皆様のお役に立てるようなコ
ンテンツとしていきます。(利用申請が必要です)

詳細はウェブサイトをご覧ください。

低平地研究会ウェブサイト内

「佐賀県防災・災害情報アーカイブ」

https://lora-saga.jp/saigai_archive/index.html

「減災・防災に関する技術講演集」を 寄贈いただきました

技術士会佐賀県支部様より「減災・防災に関する技
術講演集~CPD研修5箇年(H26.5~H30.12)の記録
~」(DVDデータ資料、令和元年10月、(公社)日本
技術士会佐賀県支部)を低平地研究会に寄贈いただき
ましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

全20編の講演資料集で、河川・水文、地盤・地
質、構造物、廃棄物等の各専門家、加えて行政、医
療、被災地支援など最前線で活躍される方による講演
記録です。多角的視点かつ低平地を含む佐賀県地域を
中心とした減災や防災に関わる最新の知見が含まれて
います。低平地研究会の会員様におかれましては、こ
ちらの各講演会資料を「佐賀県防災・災害情報アーカ
イブ」コンテンツ(ウェブサイト)にて閲覧可能です
ので、ぜひご活用ください。

(幹事長：後藤)

低平地研究に関する豆知識 -その30-

「都市の水路」

水路は都市の基礎として欠かさない存在です。我が国の都市の多くは水網とともに建設された城下町を起源とし、用排水、舟運、防御や防火等が仕組まれてきました。現在は上下水道



写真：大雨時の都市内水路

(暗渠)が追加され、都市建設時の開渠(水路)の価値が見えにくいともいえますが、大雨時に排水や貯留の役割が顕在化します。加えて、その役割を担保するには樋門等の適切な操作、堆積土等を日頃から取り除く共働作業も不可欠です。

佐賀などの城下町(町人地・武家地)では、水路の大部分は敷地の奥にあります。筆者らはこれを「内を向く水路」と名づけ(道路沿いなど人目に触れやすい「外を向く水路」と区別)、個々の敷地と水路が視覚および空間的に価値づけられることが大切と考えています。

令和元年8月の佐賀豪雨では、武雄市や杵島郡大町町、佐賀市等で甚大な被害がありました。低平地都市では外水被害の低減に加え、内水被害への備えが重要であり、都市内水路の維持管理、都市基盤の脆弱な新興住宅地の抑制、災害としなやかに付き合う建物など、低平地都市の特質やその持続をふまえ包括的にまちづくりを考える必要があります。

(後藤隆太郎：佐賀大学理工学部)

低平地研究会 刊行物のお知らせ

地域創生専門部会より「七夕神社と日本の古代史-玄海灘と有明海を結ぶ舟運について-」を発行いたしました。

ご希望の会員の方へは無料でお送りいたします。低平地研究会事務局までお問い合わせください。



低平地研究 No. 29 への論文投稿のご案内

来年度発行機関誌「低平地研究 No.29」の特集記事では『豪雨災害』がテーマです。豪雨をはじめ、気象や気候変動などに関する論文の投稿を受け付けております。その他、低平地に関連する論文の投稿も受け付けております。投稿の締切は3月31日(火)を予定しております。論文掲載のご希望がございましたら、事務局までご連絡ください。

事務局Eメール：lora@lora-saga.jp

※過去の「低平地研究」論文タイトルはウェブサイトよりご覧いただけます。https://lora-saga.jp/RLT.html

会 員 特別会員

動 向 株式会社 中野建設

中野建設は令和2年2月に創業102周年を迎えます。これまで1世紀に渡り建設業に勤しんで参りましたのもお客様のご愛顧、ご支援の賜物と、厚くお礼申し上げます。建設業の環境が激変している中で当社若手技術者や女性技術者は、熟練技術者のもとで将来に向けて技術力の更なる向上を目指し活躍しています。これからも「感謝を柱に未来へ」躍進を目指す中野建設をご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



【環境専門部会】低平地技術に関する ASIAN 協働講義プログラムの共催

令和元年11月13日～20日に開催された表記のプログラム(英題: ASIAN Collaborative Lecture Program on Lowland Technology)を支援しました。日本学生支援機構(JASSO)の短期奨学金(協定受入)ならびに佐賀大学理工学部の国際パートナーシップ教育プログラムに採択された課題で、インドネシア、ミャンマー、ベトナムから12名の学生と4名の教員、本学からは3名の学生が参加しました。経済発展が著しい東南アジアからの学生と教員を招へいし、講義や現場見学を通して低平地の知識を深めようとするものです。



参加者集合写真

近年では、企業による外国人材の活用が目立っており、技能実習制度のほかにも高度外国人材の雇用は大きな話題の一つです。参加した学生は、本学への留学や将来日本での労働や日本企業現地法人への目標を持っており、短期の経験ですが佐賀で学ぶことへの強い希望を語っていました。

【歴史・文化専門部会】講演会のお知らせ

3月3日(火)15時より、佐賀近代史研究会の藤井鹿男先生をお迎えして講演会を開催いたします。

テーマ：『佐賀近代史年表』作成の意義と課題

場 所：佐賀大学理工学部3号館1F大セミナー室
詳細は決定次第低平地研究会ウェブサイトおよび会員メーリングリストにてお知らせいたします。

編集後記

マスクが街中の店頭から消えました。コロナウイルスも怖いですが、目前に迫った花粉症対策に頭を悩ませています。

編集：三島、後藤、武富(lora@lora-saga.jp)